

市民の意思を第一に！

酒井いくろう

おはよう戸田 特別号 (No. 1)



～戸田市のあかるい未来へ向けて～

景気低迷、国家財政悪化、加速する高齢化、周辺国との対立…わが国は現在、危機的状況にあると言えるでしょう。戸田市もこれからは急速な高齢化が進み、約10年後には超高齢社会を迎えるとされています。できる限り早い時期から、危機感を持って備えておかななくてはなりません。



「すてないで！せんきょケン」。2011年県議選において酒井が行った「投票率向上キャンペーン」は、日経誌が「投票率を最大10%以上アップ」と紹介(下)。市民の意思が反映される行政を作るためには、まずは投票率の向上や市政情報の提供を通して、市政を知って頂くことが第一歩だと考えます。

現場から 戸田市議会議員 酒井 郁郎

4月10日の埼玉県議会議員選挙では、たった1人で投票を呼びかける運動を展開した。告示日の午前6時半から連日駅頭で訴えたほか、チラシを配るポスティングを全戸に実施するなど体力的投票まで活動。その結果、埼玉県全体の投票率が前年比に比べ4.2%下がる中、戸田市の投票率は0.6%アップの40.5%になった。特に、投票率が最低だった地区は6.4%上昇し、差し引き10.6%の押し上げ効果があったと見ている。チラシは投票の呼びかけだけでなく、事前に選挙管理委員会に問題が無い事も問い合わせた。印刷費用などに自費で23万円を投じたまっかには怒りだ。市の有力者が自分の応援する候補が当選するためには投票率が下がったほうがいいと発言している。知り、「市民が投票を通じて議員を監視しないと、まともな議員と入れ代わらない」と痛感した。投票率が最低の地区

国民運動で投票率アップ **それが議会改革の第一歩**

新しいマンションが多いところ。地域への関心は低いが、「このエリアの投票率は市内最低レベルです」と、あえて挑発的な文言を入れたチラシを投票日前直前にまくられたら関心が高まった。選挙管理委員会は自粛ムードに加え、予算削減で機軸も減らしたほど。投票率向上の市民運動があるというが、今は自分の選挙と重ならない地方議員がやるしかない。ポスティングは簡単で最も効果がある手法だと分かったため、議員を皮切りに国民運動に広げればと期待する。市民は議会に対してある程度ムードもあるが、まず選挙に行けば、次はちゃんと人を選ぶとする。選挙を初音を受けたが、自分の票の振り回しにもなると思えてまず始めてみてはどうだろうか。

第一に、今後増加するシニア世代が安心して元気に生活できる町にすること。そのためには、道路や住宅のバリアフリー化、趣味や勉強、仕事などの有意義な活動の支援、もしもの時のための医療や介護制度・施設の充実などが考えられます。

そうした福祉予算を確保するためには、余裕のある今のうちに借金を返済し(市債残高の圧縮)、ムダを一掃し、効率的な行政を作っておくことが不可欠です。

それと共に大事なことは、若い世代が戸田市に定着したくなるような、次世代のための施策を行うことです。高齢化は高齢者が増えるのが問題なのではなく、若い人がいなくなることが問題だからです。

そこで、子育て・義務教育・生活環境の充実、住宅政策といった若年世代の暮らしの当事者の視点に立ったきめ細かな支援や、社会人の学びの機会の拡大など、人への投資を行います。さらに、ITや福祉など新産業やNPOを育成し、税収増と地元雇用を両立します。

戸田市は時代に合わせてその姿を変え、多くの人を受け入れてきました。戸田市に生まれ育った人はもちろん、新しく移り住んだ人も含め、このまちに暮らす誰もがふるさとを思い描ける場所にしていきたいと考えています。

住むほどに愛着を感じる町。毎日の生活も、努力や挑戦も、後押しされる街。そんな町の礎を築く。

私はその志を持って臨んでいきます。

戸田市議会議員(1期) 酒井 郁郎

※戸田市政策研究所は、「全国の市町村中10番目という非常に急激な高齢化が進み、2025年頃には超高齢社会を迎える」としています

【自己紹介】酒井郁郎(さかいいくろう)●1975年3月生まれの37才 ●東京大学医学部卒業、同大学院修了(医療政策)●2000年:マッキンゼー・アンド・カンパニー入社(コンサルタント)●2003年:(株)ポピンズ入社(保育)●2004年~:(株)エジュカルサポートを経営(医学教育)●2005年:戸田市議選に立候補(落選)●2009年:再度市議選に立候補(当選)●政党:無所属 ●趣味:総合格闘技、娘(1才)を風呂に入れること

戸田市には

まだまだこんな課題があります。(酒井が取り組んでいるテーマの一部です)

- 税金の使い道を効率的に！
 - ・市役所全体の高コスト体質。例えば、自転車撤去にかかっている費用は京都市の20倍(1台あたり約2万円)。
 - ・500億円近い借金(市債残高)がある一方、外郭団体等には「基本財産(株式会社における資本金のようなもの。元々は市民の税金)」が全く活用されずに5億円以上も眠っています。
- まだまだ多い、議員特権の廃止を！
 - 【たとえば、こんな制度が残っています】
 - ・費用弁償(議員報酬とは別途支払われる出席手当。現在は1日当り3,000円)
 - ・永年勤続議員を「戸田市表彰」により表彰。
 - ・議員報酬などの処遇や議員定数は、すべて議員自身が決定。

●市民の声を反映する行政に！

・公立保育園において、国の衛生ガイドライン(平成21年)に沿わない「使用済みおむつ(排せつ物が付着)の持ち帰り」制度が残っており、糞便による感染症のまん延が懸念される状態が続いています。



ノロ、ロタなどのウイルスは極めて微量の糞便からも感染します

・何年も前から市への要望の多い、駅前喫煙所における分煙対策については、いまだに「検討中」となっています。

●市民の命を最優先に！

- ・自殺者数は県内平均を大きく上回る。自転車死亡事故数は県内ワースト1。(いずれも人口当り)
- ・中高年男性の自殺率は県平均の約2倍、特に独居シニア世帯の自殺が多発しています。シニア世代の市民の方から、医療や福祉に対する不安や不満の声を耳にすることも多くあります。

●更なる学力向上策を！

多くの小学生が「中学受験」により市外中学校に進んでいます。学力向上に関する要望も多く頂きます。

課題解決へのご提案は、裏面へ！

【酒井の経歴】

問題意識のままに、医療政策からコンサルティング、保育、医学教育、そして現在は戸田市政に。その過程でこんなことを学んできました。

【大学・大学院】—— 医療政策の調査研究を実施。「誰もが安心できる医療の実現」を目指し、国全体の制度設計から市町村単位の地域医療体制まで、現場の検証と理論面の検討を重ねました。

【コンサルティング会社】—— コンサルタントとして大組織のマネージメントに関する分析、アドバイジングの手法を体得。問題解決のプロとして、何としてもやり抜く粘りや根性が鍛えられました。



海外研修にて(前列赤い服が酒井)。世界中の支社の社員が参加する中、英語力では劣るも日本代表のつもりで積極的に発言しました。

【保育会社】—— 保育園の新設と運営を担当。

- ・働く母親の思いや、仕事と子育てを両立するために保育園ができることを考え抜きました。
- ・乳幼児期の環境が非常に大切であることに気づき、保育園の環境作りに徹底的にこだわりました。
- ・保育の現場で働く方たちに、やりがいを持って働いてもらえるよう、常に頭を悩ませました。

【会社経営】—— 大学、専門学校、社会人向けの医学教育・進路指導業務。

- ・新規事業や顧客の開拓のほか、クレーム対応や不良債権発生など経営課題に対処する過程で、中小企業を経営する大変さや人のありがたさが身にしみました。
- ・会社全体で、これまでに数千人の学生の学業や受験、進路を指導。学生たちの悩みや、勉学を続ける上での問題を一緒に考えてきました。酒井は現在も大学において医療政策の講義を担当しています。

学生からもらった寄せ書き。若者の悩みに付き合うのは、自分にとっても学ぶことが多いです。



酒井の重点政策

酒井は市議会議員1期目の4年間、市民の皆さんから何百というご意見を頂き、議員活動につなげてきました。しかしながら、市民の生活の実感のこもった視点からの課題がまだまだ多いと感じます。今後は次のような政策の実現に向けて活動していきたいと考えています。皆さんのご意見を頂けましたら大変有難いです。

行財政改革 「無駄をなくし、税金の使い道を変えます」



500億円の借金と、全国の市町村で10番目の急激な高齢化。すぐそこに迫る「税收減と福祉需要増」に備え、借金圧縮と高コスト体質の改善を前倒ししたい。経営コンサルティング、企業経営者出身の酒井に、この難しくも重要な仕事をさせてください！

●外郭団体改革。①整理削減。②遊休資産の市への返還（表面参照）③役員ポストを原則公募に。

・「同じ顔ぶれ」審議会の統廃合により、開催費用を削減します。

・市債残高を圧縮します。

・事業評価の徹底と見直しのルールを作ります。

●議員特権の廃止、今度こそ！

①議員報酬額を独立した外部委員会に諮問します。

「自分の報酬額を自分で決める」現在の制度はどうみてもおかしい。市民から成る委員会に意見を求め、改善への第一歩としたい。



②費用弁償（議員報酬とは別の出席手当。現在は1日当たり3,000円）を廃止します。

③経費（費用弁償）や個人視察・会派視察内容の外部監査の義務付け&ウェブ公開を行います。

④市長・市議会議員の永年勤続を、戸田市表彰の対象から除外します。

⑤海外友好都市への議員派遣のあり方を見直します。

⑥「県内平均の約3倍」衛生センター・競艇議会報酬を見直します。

戸田市の関連団体である「衛生センター」「競艇」の議員は、市議会議員が兼職しており、市議会議員報酬とは別に報酬が支払われています。

●入札改革（一般競争入札と総合評価方式を市の調達全般に導入し、コスト削減と品質向上、市内産業の育成も両立します）

- ・公的資産の有効利用を図ります。公有地の利用状況を外部評価によりチェック、不要なものは売却。
- ・補助金支出を改善します。毎年ゼロベースで見直し、必要な事業を行う団体に公正に配分。

市民の意思が第一「市民の意思が可能な限り反映される行政を作ります」

「役所は要望を聞いてくれない」「何をやっているのか分からない」というご意見を頂くことがあります。市政に関心が持てないのは、そうした思いによる部分も大きいのではないのでしょうか？役所にとって都合の悪い情報も含めて公開し、市で起こっていることを分かりやすく伝え、頂いた声には誠実に答える行政を目指します。



・住民投票を制度化します。大型のハコモノやその他の重大事項について、市民の意思を確認する制度を作ります。

●情報公開・情報を透明化します。①行政のコスト情報を、予算編成の段階から公開。②市職員による外郭団体等への再就職の透明化&一般公募。③口利き防止条例の提案（「議員による口利きの禁止」、「議員による行政への要望事項の公表」を定める）

・市広報を全戸配布にし、市民の知る権利を平等に保障します。

現在、市からのおしらせを伝える手段として重要な「広報戸田市」を受け取れない世帯が数多くあります。全戸配布にすることで、地元への関心を促します。また、現在配布を代行している町会の負担も軽減されます。

子育て・教育環境「こどもの笑顔を増やし、将来に期待が持てる”環境をつくります」

- ・保育園、学童保育の待機児童を計画的に減らします。
- ・保育園の運営内容を改善します。

たとえばこんなこと 公立保育園の「使用済みおむつ（排せつ物が付着）の持ち帰り」方式を廃止し、園での処分に切り替えを実現します（表面参照）。働きながらの子育ては想像以上に苦勞が多い。少しでも両立しやすくなるよう当事者の視点に立った支援を行います。（公立園は投票や歯磨きも未実施。要望していきます）



- ・マタニティ・産後回復期のスイミングやヨガなど子連れで参加できるプログラムを、スポーツセンターや民間ジムで実施します。
- ・幼いころから本に親しみやすい環境を作ります。図書館を乳幼児にも利用しやすくする他、室内広場や公民館にも読み聞かせができる絵本コーナーを整備。
- ・親子で楽しめる遊び場を増やします。乳幼児にも遊びやすい公園や、土日も利用できる室内広場、粘土遊びやボールプール、ダンボール遊び、ペイント遊び、木のおもちゃなど豪快に遊べるプレイセンターを整備。

酒井の師、前恵庭市長・中島興世氏直伝の政策。氏は読書環境の整備や日本初のプレイセンター設置を実現。学力の大幅な向上やいじめの一掃、若い父母の地域参加などの効果をもたらしました。



- 小中一貫化を実現し、学力向上につなげます。
- ・民間学童保育の設置を促し、多様な保育内容を実現します。（時間・年齢の拡大、学習・習いごとの導入など）

命が守られる社会「理不尽に命が奪われることのない社会をつくります」

- ・交通事故死を防止します。道路環境を検証し、歩行者に優しい街づくりを行います。
- ・健康増進をサポートします。学校における食育や、大人向けの栄養指導、卒煙支援など、具体的な効果を測定しながら1つずつ実施します。
- ・4大疾病や精神保健（自殺防止）対策を強化します。

自殺対策は酒井が特に力を入れて取り組んできた課題の1つ。市内だけで毎年30人以上もの普通の方が自殺により亡くなっています。相談窓口の広報や未遂者支援の強化、関係機関との連携など、早急な対策を求めています。



・医療センターの不便を解消します。（待ち時間対策、診療科目や時間の不足解消など）

酒井いくろう【Eメール】 ikuro.sakai@gmail.com
〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1（議会事務局内）
TEL/FAX：048-432-9168
質の高い議員活動のためには、皆様からのご意見が必要です。どのようなことでもぜひご一報下さい。



チラシ内容の詳細はこちらです
↓↓↓
酒井郁郎ウェブページ
<http://sakai.sub.jp/>

年をとっても、普通に暮らせる町「戸田市の全ての世代を笑顔にします」

- ・シニアスポーツを活性化します。様々な種類のシニアサークル結成・運営をサポート。
- ・市の行う健診や検査補助のメニューを検証し、病気の早期発見・早期治療を促します。
- ・転倒骨折の予防に努めます。道路や家庭内に段差をなくす「バリアフリー」化を推進。



仲の良い祖母が転倒骨折により入院。ご老人にとっては人生を一変させる重大事であることを痛感しました。防止のために行政ができることは何でもすべき、と思います。



最近の祖母と私

- ・新人市職員を地域連絡員として各地区に配置し、独居シニア世帯の孤立防止に当たります。また、買い物困難への支援の方法を研究します。
- ・シルバー人材センターの活性化やシルバー起業の支援などにより、福祉・保育・社会貢献などにもシニア世代の経験を生かします。

障がいがあっても、普通に暮らせる町「障がい者の意見を町に、制度に、生かします」

- ・障がい者本人とご家族の意思を尊重しつつ、雇用拡大や自立支援を行います。
- ・障がい児・発達障がい児への支援員を拡充します。

市民の声にきちんと応えます

- ・市民にやさしい役所に。手続きの簡略化や窓口の一本化を実施します。
- ・駅前喫煙所の分煙を徹底します。
- ・市役所人事を実力本位の評価制度に変革します。

